　　様式　２

　　　　　　　　　　　　　学　　位　　申　　請　　書

|  |
| --- |
| 令和 年 月 日  鳥取大学長　　中　島　　　光　　殿  　　　　　　　　　　　　　　　　申請者　　　　　　　　　　　　　 印  　　　　このたび鳥取大学学位規則第4条第1項に基づき、別紙のとおり  　　　関係書類を添えて申請します。  ※注意事項※  ・ページ設定は、A4サイズ、余白は上下左右各2cm、40文字×32行とする  ・フォントはMS明朝を使用し、記載例を参考に、一部MSゴシックを使用すること（ただし、ギリシャ文字のフォントに限りSymbolを使用すること）  ・Macで作成する場合も上記に準じたフォントを使用すること  ・文字サイズは、指定箇所以外12ポイントとする  ・正式名称を記載すること（例：×鳥大病院　〇鳥取大学医学部附属病院）  ・「今回、我々は→本研究は」、「既報→先行研究」とすること  ・数字と単位の間には、半角スペースを入れること  ・「％」は全角または半角のどちらかに統一すること  ・句読点には「、」「。」を使用すること（「，」「．」は不可）  ・微生物などの表記は斜体表記とすること  ・Yonago Acta medicaの投稿要綱で使用が認められている略語については規定せずそのまま使用し、そのほかの略語については初出時に「transforming growth factor beta 1（TGF-β1）」のように、フルスペルの後ろに（　）書きで規定すること（Yonago Acta medicaの投稿要領は、鳥取大学医学図書館HPで確認可）  ・申請者が外国人の場合、論文要旨に限り英語での記載可（ただし、学位審査会後に作成する学位論文審査要旨内の論文要旨は日本語で記載する必要があるため注意すること） |

申　請　者　調　書←18ポイント

主論文作成場所は「鳥取大学医学部〇〇学」とし、〇〇には学部の基礎となる教室名をそのまま記載すること。（「保健学科……」「生命科学科〇〇学分野」などの記載にはしない）

申請者氏名　　鳥取一郎　←外国人の学生で漢字氏名表記でない場合はアルファベットで記載

主論文　↓論文題目が英語の場合、文頭・固有名詞は大文字、その他は小文字とする

Measurement of intraocular pressure by both invasive and non-invasive techniques in rabbits exposed to head-down tilt　　↓論文題目が英語の場合は日本語訳文を付すこと

（ヘッドダウンテルト負荷ウサギにおける侵襲的ならびに非侵襲的な眼圧測定）

（著者：鳥取一郎、東京薫、岡三郎、鳥取次郎、鳥取三郎、鳥取肆朗、鳥取晤郎、

　　　　鳥取六郎）←著者名は氏名の途中で改行しないこと

平成22年　Japanese Journal of Physiology　掲載予定

↑まだ発行されていない場合は「掲載予定」とすること

主論文作成場所　　鳥取大学医学部病態情報内科学

↓参考論文3本を掲載年月の古い順に配列（掲載年月は研究歴開始より後のものが望ましい）

掲載誌の表記は「令和〇年　XXXXXXXXXX　〇巻　XX頁～XX頁」とし、それぞれ全角スペースを入れる

参考論文

1. Acute hemodynamic effects of bunazosin in congestive heart failure-differing responses according to degree of cardiac dysfunction

（うっ血性心不全患者におけるブナゾシンの急性効果－心機能別の反応）

（著者：鳥取一郎、東京太郎、鈴木三郎）

平成18年　General Pharmacology　24巻　200頁～210頁

2. 核上性舌下神経麻痺およびAvellis症候群を呈した延髄小梗塞の1例－下の核上性支配について考察－

例1）Electronic pages(articles)の場合

→通常のページ番号の前にe(またはE)がつく

例2）article numberのついている文献の場合

→ページ番号の代わりに、article numberを書く

例3）DOIコード（頁数等に相当するものがない場合）

→ページ番号の代わりに、「DOI：～」の形で記載

（著者：鳥取一郎、大山花子、佐藤○子、田中○郎、○原○雄）

平成19年　臨床内科学　36巻　692頁～695頁

3. 蝶形骨洞炎による外転神経麻痺を中心としたpainful ophthalmoplegia

（著者：鳥取一郎、○川○子、東京太郎、鈴木三郎）

平成21年　臨床内科学　36巻　692頁～695頁

↑発行済の場合は巻数・頁数を記載すること（発行月・号数は不要）

電子ジャーナル等で発行後も頁数等が付与されない場合は、頁数等に相当する情報を記載すること

勤務先及び身分　鳥取大学医学部附属病院医員（第一内科診療科群）

↑在職中の場合は、履歴書の表記とあわせること

連絡先住所（電話番号）　米子市西町36-1（33-1234）

↑学内の職員に連絡を依頼する場合は、その方の氏名を併せて記入すること

指導教授氏名（自署） 印

↑指導教授が空席の場合は、専攻長に依頼すること

履　歴　書←18ポイント

本　籍　　　鳥取県　　←都道府県名まで（外国籍の場合は国籍）

現住所　　　鳥取県鳥取市東町1丁目2番地

生年月日　　昭和40年4月1日　←外国籍の場合は西暦で記載（学歴、職歴等も）

性　別　　　男

国籍は正式名称（×中国　〇中華人民共和国）

↓14ポイント

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　名

外国人の学生で漢字氏名表記でない場合はアルファベットで記載。また、ふりがなは母国語読み↑

学　歴　　↓学歴・職歴の年月日が不確かな場合は確認すること

　平成 9年 4月 1日　　鳥取大学医学部医学科入学

　平成15年 3月20日　　同上卒業

　平成15年 4月30日　　医籍登録第○○○○号

　平成17年 4月 1日　　鳥取大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程入学

　平成18年 4月 1日　　同上休学　←在学中に休学歴があれば、休学日及び復学日を記載

　平成19年 4月 1日　　同上復学

　平成22年 3月31日　　同上退学

「（特定任期付）」の文言は記載不要

職　歴←原則として、職名の後ろに括弧書きで所属を記載

　平成15年 5月 1日　　鳥取大学医学部附属病院研修医に採用

　平成17年 3月30日　　同上退職

　平成17年 4月 1日　　○○病院医師（内科）に採用

　平成19年 9月30日　　同上退職

　平成19年10月 1日　　鳥取大学医学部附属病院医員（第一内科診療科群）に採用

履歴書が2ページ以上にわたる場合は、ページの先頭に「同上〇〇」がこないよう調整すること

　　　　　　　　　　　現在に至る

論　文　目　録←18ポイント

主論文

Measurement of intraocular pressure by both invasive and non-invasive

techniques in rabbits exposed to head-down tilt

（ヘッドダウンテルト負荷ウサギにおける侵襲的ならびに非侵襲的な眼圧測定）

（著者：鳥取一郎、東京薫、岡三郎、鳥取次郎、鳥取三郎、鳥取肆朗、鳥取晤郎、

　　　　鳥取六郎）

平成22年　Japanese Journal of Physiology　掲載予定

参考論文

1. Acute hemodynamic effects of bunazosin in congestive heart failure

-differing responses according to degree of cardiac dysfunction

（うっ血性心不全患者におけるブナゾシンの急性効果－心機能別の反応）

（著者：鳥取一郎、東京太郎、鈴木三郎）

平成18年　General Pharmacology　24巻　200頁～210頁

2. 核上性舌下神経麻痺およびAvellis症候群を呈した延髄小梗塞の1例－下の核上性支

配について考察－

（著者：鳥取一郎、大山花子、佐藤○子、田中○郎、○原○雄）

平成19年　臨床内科学　36巻　692頁～695頁

3. 蝶形骨洞炎による外転神経麻痺を中心としたpainful ophthalmoplegia

（著者：鳥取一郎、○川○子、東京太郎、鈴木三郎）

平成21年　臨床内科学　36巻　692頁～695頁

学　位　論　文　要　旨←18ポイント

（主論文名はゴシック）

Measurement of intraocular pressure by both invasive and non-invasive techniques in rabbits exposed to head-down tilt

（ヘッドダウンテルト負荷ウサギにおける侵襲的ならびに非侵襲的な眼圧測定）

（論文題目及び「方法・結果・考察・結論」の文字を除き2,000字以内（スペース除く）、2頁以内）

　微小重力環境下におかれた生体では、体液の頭方移動が生じることが知られている。こうした体液移動の結果、宇宙飛行士の眼圧（IOP）が上昇することが報告されているが、その時間経過や発生機序に関する詳細な検討はなされていない。・・・・・・・・・

（方法、結果等の項目はゴシックで文字の間に次のとおりスペースを入れる。）

方　法←ゴシック

　実験には体重2.3～3.2 ㎏の白色家兎を用いた。ペントバルビタールによりウサギを麻酔し、非動化して人工呼吸下に実験を行った。眼圧の測定は、2つの方法を用いて行った。侵襲的方法では、25ゲージ針を左前眼房に刺入し、・・・・・・・・・・

結　果←ゴシック

　リザーバーの高さを変えると、圧トランスジューサーにより測定した眼圧（IOPNEEDLE）は素早く応答し、1分以内に一定値に達し、その後5分間は変動しなかった。IOPNEEDLEは、リザーバーの高さから予測される値と極めて近い圧を示した。・・・・・・・・・・

考　察←ゴシック

　圧トランスジューサを用いた侵襲的眼圧測定は、ウサギの眼圧を正確に測定し得ることが判明した。また、トノペンを用いて非侵襲的にウサギ眼圧の測定を行った場合、絶対値を知るには校正が必要であるが、・・・・・・・・・・

結　論←ゴシック

　針刺入による侵襲的方法ならびにトノペンによる非侵襲的方法の両者は、ウサギの眼圧測定に用い得ることが示された。ウサギにおける45度HDT負荷は、微小重力が眼圧に及ぼす影響を調べ、その対策を講じる上で有用な実験モデルになると期待される。

参　考　論　文　要　旨←18ポイント

（参考論文名はゴシック）

1. Acute hemodynamic effects of bunazosin in congestive heart failure

-differing responses according to degree of cardiac dysfunction

（うっ血性心不全患者におけるブナゾシンの急性効果－心機能別の反応）

（論文題目を除き1篇につき200字以内（スペース除く））

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

2. 核上性舌下神経麻痺およびAvellis症候群を呈した延髄小梗塞の1例－下の核上性支

配について考察－

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

3. 蝶形骨洞炎による外転神経麻痺を中心としたpainful ophthalmoplegia

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

別紙様式　※原則としてこの承諾書を使用し、共著者１名につき１枚作成すること。

承　　　諾　　　書

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　↓日付は手書き

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 令和　　年　　月　　日

　　鳥取大学大学院医学系研究科長　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　↓自署

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　名：　　　　　　　　　　　印

　　私は、下記論文を、私と共著した　鳥取一郎　が主として行った研究であることを

認め、貴研究科に学位論文として提出することを承諾します。下記論文が学位授与論文

として認められた後、鳥取大学及び国立国会図書館が、インターネットの利用により同

論文またはその要約を公表することは差し支えありません。

　　　また、私は、当該論文を学位論文として提出しておらず、将来においても提出しま

せん。

記

著者：鳥取一郎、東京薫、岡三郎、鳥取次郎、鳥取三郎、鳥取四朗、鳥取五郎、

　　　鳥取六郎

論文題目：Measurement of intraocular pressure by both invasive and non-invasive

　　　　　techniques in rabbits exposed to head-down tilt

雑誌名、巻、頁：平成22年　Japanese Journal of Physiology　掲載予定

別紙様式　　※日本語の承諾書で提出できない場合、本様式でも提出可とする

Letter of Agreement

To the Dean

Tottori University Graduate School of Medical Sciences

I approve submission of the research paper listed below, written by Ichiro Tottori, main author, and others as a degree thesis for Tottori University Graduate School of Medical Sciences. When the thesis is accepted for a doctoral degree, it becomes

permissible for this thesis to be published over the Internet by Tottori University and the National Diet Library.

I attest that this paper has not been or will never be submitted as my thesis for any degree to any course or school or to any publications in Japan or abroad.

Authors : Ichiro Tottori, Kaoru Tokyo, Saburo Oka, Jiro Tottori,

Saburo Tottori, Shiro Tottori, Goro Tottori, Rokuro Tottori

Title : Measurement of intraocular pressure by both invasive and non-invasive techniques in rabbits exposed to head-down tilt

Journal, volume, page : 2008, Japanese Journal of Physiology, in press

Printed Name : Kaoru Tokyo

Signature :

Date :

研　　究　　歴　　表

　　　　　　　　　　　　指導教授　　　○　○　○　○　　　印

　令和　　年　　月　　日現在　　　学位申請者

研究歴　（基礎・臨床）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研　究　歴 | 期　　　　間 | 計 | 研究歴の計算 | 研究歴（換算後） |
| 大学専任職員 | 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
| ～ | 年　　月 | 年　　月 | 年　　月 |
| 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
| 大学院学生 | 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
| ～ | 年　　月 | 年　　月 | 年　　月 |
| 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
| 医学系研究科研究生 | 平成　　年　　月　　日 |  | 年　　月 |  |
| ～ | 年　　月 | ×　　／ | 年　　月 |
| 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
| 医員（研修医） | 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
| ～ | 年　　月 | 年　　月 | 年　　月 |
| 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
| 医　　員 | 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
| ～ | 年　　月 | 年　　月 | 年　　月 |
| 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
|  | 平成　　年　　月　　日 |  | 年　　月 |  |
| ～ | 年　　月 | ×　　／ | 年　　月 |
| 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
|  | 平成　　年　　月　　日 |  | 年　　月 |  |
| ～ | 年　　月 | ×　　／ | 年　　月 |
| 平成　　年　　月　　日 |  |  |  |
| 合　　　計 |  | 年　　月 |  | 年　　月 |

紹　　介　　状

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（主な研究機関が本学医学部でない場合）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和　　年　　月　　日

　鳥取大学大学院医学系研究科長　　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　鳥取大学医学部○○○○

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　教授　　○　○　○　○　　印

学位論文審査委員会委員選出願

令和　　年　　月　　日

　医学系研究科長　　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導教授　　　　　　　　　　　印

　学位論文申請者（　　　　　　　　　）の審査委員会委員を次のとおり選出願いたいので、審議願います。

↓主査は必ず教授。ただし主論文の共著者は不可

　　　主　査　　○　○　○　○　　教　授

↓副主査も原則として教授。ただし1名に限り准教授も可

　　　副主査　　○　○　○　○　　教　授

　　　副主査　　○　○　○　○　　教　授

※学位授与の可否を審議する研究科委員会には、主査1名、副主査1名以上の出席が必須（条件を満たさなければ修了延期）です。なお、研究科委員会には准教授は出席できませんのでご注意ください。

博士学位論文の公表にかかる申立書

令和　　　　年　　　月　　　日

廣(外字)鳥取大学長　　中　島　　　光　　殿

氏　　名　　　　　　　　　　　　　　　　印

鳥取大学学位規則第11条の規定に定める博士学位論文の公表について、同条第2項の規定に

基づき下記の理由により、全文に代えて当該論文の要約をもって行うことについて、承認願

います。

記

（１）学位論文名：

（２）審査委員(主査)氏名：

（３）学位論文全文を公表できない理由（出版社への著作権移譲を理由とする場合、Copyright transfer agreementの添付等により、記載を簡略化することもできる。）

解除の予定がない場合は取消線を引く。

解除の予定はあるが未定の場合は「未定」と記入。

　　　　　　　　　　　　当該理由の解除（予定）年月日　　　　　年　　　月　　　日

備考　　本申立書により申し立てをしない場合、大学が学位論文をインターネットにより公表します。

学位論文全文の公表を要約をもってかえることができる場合は、以下のとおりです。

1. 博士論文が，立体形状による表現を含む等の理由により，インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合。
2. 博士論文が，著作権保護，個人情報保護等の理由により，博士の学位を授与された日から1年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合。
3. 出版刊行，多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載，特許の申請等との関係で，インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が，博士の学位を授与された日から1年を超えて生じる場合。

＊　なお、当該事由が無くなった場合には，博士の学位を授与された者は当該博士論文の全文を，大学等の協力を得てインターネットの利用により公表することとなっています。

＊　本申立書により大学の承認を受けた場合も、本学図書館及び国立国会図書館に当該博士論文を備え付け、来館のうえ閲覧を希望した方へはその全文の閲覧利用を認めることとなります。

Application of Publication of Doctoral Thesis

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Date:

　　To the President

　　 Tottori University

Name: 　Seal

|  |
| --- |
| I would appreciate it if you approve publication of the summary of my thesis in lieu of publication of |
| the full Doctoral Thesis text based on Article 11-2 of the Rules for Degrees at Tottori University. |

（１）Title：

（２）Name of Chief Examiner：

（３）Reason I can not publish the full text of Doctoral Thesis

|  |
| --- |
| Date when the above reason no longer applies: |

Notes：If you do not submit this application, it becomes permissible for this thesis to be published over the Internet by

Tottori University and the National Diet Library.

The following are cases where you can substitute publication of the summary in lieu of the full text:

1. The Doctoral Thesis includes three-dimensional shapes or solid geometry so that it is difficult to be

published on the Internet.

1. The Doctoral Thesis contains contents that are not able to be published within a year from the date the

author gets his or her PhD. Degree, by reason of copyright protection or privacy protection etc.

1. In relation to publication as a book, publication in journals which prohibit double publication, or

application for a patent, it is obvious that the author suffers a disadvantage over the one-year period from

the date the author gets his or her PhD. Degree.

The authors are supposed to publish the full text in cooperation with the university if the above reasons no longer apply. Even if this application is accepted, the full text is supposed to be sent to the university library and National Diet Library and be available to anybody who comes to the library and asks to read it.